

## 例 言

1. 本書は、日本塩業史研究（考古学）における文献目録である。塩業史に関する考古学研究論文・研究ノートは少数であり、圧倒的多数は埋蔵文化財発掘調査報告書であるため、報告内容を簡潔に表現することが困難である。そのため、併せて遺跡一覧表を作成し、報告内容の一部を表示した。なお、古代・中世の塩関係木簡については、発掘調査報告書などに記載されているが、奈良文化財研究所の「木簡データベース・木簡庫」、「全国出土木簡遺跡・報告書データベース」で文献目録が整備されているため、本書では大部分を取り上げていない。
2. 文献の対象は縄文時代～平安時代であるが、一部、鎌倉時代～江戸時代を含んでいる。また、発行年は1950年～2021年が中心であるが、1950年以前も少数ある。
3. 文字の表記のうちアラビア数字（1. 2. 3...）は、原則的に半角とした。また、ローマ数字（Ⅰ. Ⅱ. Ⅲ...）等はアラビア数字（1. 2. 3...）に変更している。
4. 文献目録・遺跡一覧表は都道府県別とし、「都道府県コード表」の順に配列している。
5. 文献の配列は、原則として発行年月の古い順としたが、編集の最終段階で追加した資料についてはその限りでない。
6. 遺跡一覧表の製塩土器の分類については、「近藤義郎編 1994年3月『日本土器製塩研究』 青木書店」の各県別報告に基づくが、編者の考えで追加・変更している箇所がある。
7. 「製塩土器」の呼び方については、諸説あるが、本書では最も広義に解釈し、塩生産に関係している土器をすべて含んでいる。ただし、本書では製塩土器のうち堅塩作成専用土器については「堅塩土器」と呼ぶ。
8. 遺物・遺構・時代等であいまいなものは？としている。
9. 本書の編集は、岩本正二（日本塩業研究会会員）が行った。